

南ブロック研修旅行 令和6年12月8日(日)～9日(月)

コロナ禍の影響で数年間中止していたブロック旅行ですが、今年は南地区長の月出さんがプランを立ててくださり、満を持しての再開となりました。

しかし、久しぶりの開催にもかかわらず、参加者がなかなか集まらず、最終的に参加者は7名。そのうち日帰り参加が2名でした。少人数ではありましたが、これが意外と面白い旅になったのです。

1日目

旅行初日は横浜駅からマイクロバスに乗り、一路「吉田茂邸」へ。有名な建物ですが、私は初訪問です。焼失後に再建された建物ですが、大磯城山公園内にあり、周囲の景色も素晴らしいです。大磯町郷土資料館や茶室「城山庵」なども見学し、元は三井財閥の別荘だったという話に歴史の重みを感じました。



続いて訪れたのは、開成町の「あしがり郷瀬戸屋敷」。こちらにも初めて訪れた場所で、かつての豪農の屋敷が保存されています。ゆったりとした時間が流れる中、歴史を感じながら散策を楽しみました。さらに近くの酒蔵を訪れ、地酒をお土産に購入。



その後、箱根の温泉宿に到着。夜は宴会を楽しみましたが、大きな会場の中央にポツンと7席だけという光景が少しシュールでした。温泉で日頃の疲れを癒し、初日を終わりました。

2日目

翌朝はトラブルがありつつも、箱根新道を経て「箱根関所」へ。関所の歴史についてじっくり学び、箱根以外にも多数の関所があったことを知りました。

次に向かったのは真鶴。「ケープ真鶴」でランチを楽しむ予定でしたが、料理人が病欠とのことで、ほぼ全員が干物定食に。しかし、私にとっては朗報がありました！併設されてい

る「町立遠藤貝類博物館」を訪れることができたのです。以前から興味があったオキナエビスの標本をついに見ることができ、感動しました。



旅の最後は、今回のメインイベント「江之浦測候所」です。「測候所」という名前ですが、実は現代美術作家・杉本博司氏が設計した野外美術館。回廊型のユニークな施設で、事前予約が必要なほどの人気スポットです。普段あまり芸術に触れる機会がない私ですが、素晴らしい景観と作品に心を動かされました。



総括

今回の研修旅行では、1日に2か所ずつの見学というゆったりとしたスケジュールで、それぞれの場所をじっくり楽しむことができました。慌ただしくあちこち回る研修とは一味違い、こうした旅も良いものだと感じました。

来年もぜひ研修旅行を続けられればと思います。その際には、もっと多くの人と楽しめることを期待しています。

